



# 広報 合造協

www.jalc.or.jp

第426号

2009年9月10日

発行／社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03(5684)0011 FAX03(5684)0012

## 本号の主な内容

- 2面【学会の目・眼・芽】第6回 高梨雅明氏  
 3面【特集】下村先生の寄稿(6月号)に応えるべく  
 「生活景の形成と景観整備」についての考え方  
 景観整備機構を活用した美しい景観創りはか  
 4面【協会だより】「全国造園フェスティバル」開催に協力を  
 【緑滴】みどりの輝き / 【事務局の動き】



技術情報共有発表会の冒頭、あいさつする佐藤四郎会長

## 技術情報共有発表会を開催 学会と4総支部が発表

全国から  
最新情報

## 校庭芝生化、街路樹、植栽基盤、壁面緑化

発表会は冒頭、佐藤四郎会長が「関係各位のご協力により、開港150周年の記念すべき年の横浜を会場に開催することができた。午前中には関東・甲信総支部が石組みの講習を行うなど、盛りだくさんの一日だが、環境の世紀といわれる21世紀に、造園業界が主役となつて、安全・安心で豊かな環境をつくるため、さらなる技術の向上を図り、その力を発揮していく」と述べた。

発表は、①「烏山北小学校校庭芝生化事業について」、②「関東・甲信総支部が石組みの講習を行うなど、盛りだくさんの一日だが、環境の世紀といわれる21世紀に、造園業界が主役となつて、安全・安心で豊かな環境をつくるため、さらなる技術の向上を図り、その力を発揮していく」と述べた。

発表は、①「烏山北小学校校庭芝生化事業について」、②「街路樹剪定を科

修景植栽と、低コスト、低管理にかかる事項がほとんどであった。

このままよいのか?と考えていた頃出会ったのが故イアン・マクハーゲンの「デザイン・ウイズ・ネーチャー」、

科学的に土地を読む手法や自然の機能

を定量的に評価する技術が紹介されて

いた。

そこで、生物としての緑にしか生み出せない価値、つまり「生物多様性」を評価しその価値を顕在化(見える化)させることで、経緯や効果などについて語った。

その後、質疑応答を経て、濱野周泰東京農業大学教授が講評。校庭の芝生化

は、行政・コンサル・施工・

栽培の考え方を取り入れても

いい。オオイタビニについて

このうち、藤原氏は、報

告集に掲載された「モザイ

カルチャ」の創造が造園・

園芸にもたらす意義」田代

は、行政・コンサル・施工・

栽培の考え方を取り入れても

いい。オオイタビニについて

このうち、藤原氏は、報

告集に掲載された「モザイ

# いただきました

寄稿の中で、「整備」と題するものと題する寄稿の中でも、「日々の整備」がなされたいと述べられていた。

日造協は、造園建設業を

1.はじめに

主たる業務とする施工業者  
の集合体であります。しか  
ず、その業務内容は多岐に

主として会社、ゴルフ場  
等の民間企業の管理業務を  
おこなう会社、個人庭園の  
設計・施工を行っている会  
社等であります。

各分野において景観に対する考え方とらえ方は異なります。  
道路景観を構成する街路

## 景観整備機構を活用した美しい景観創り

### 街路景観の維持に街路樹剪定士が活躍

造園分野の研究結果が体系化され、誰もが納得できる共通の価値観や判断基準として昇華し、社会を動かすようになるまでには相当の時間がかかります。フォーラムの開催に付けていたが、日々の整備」がなされていたが、日々の整備」と題する寄稿の中でも、「日々の整備」がなされたいと述べられていた。

正直なところ、長らく公園緑地行政分野に身を置いてきた私自身も、同様の感覚を抱いた一人でした。改めて振り返ってみると、都市公園整備や緑地保全、緑化推進に関する政策の企画立案、推進の各段階において、ある課題への対応策を考える際の拠り所は、学会活動を通じて有識者相互の意見交換等により明らかにされた共通認識や科学的判断基準にあつたこと、すなわち、その多くの部分は学会活動の成果に依存していましたことに驚かされます。皆さんに携わる

造園空間現場において諸課題への対応策を考える際にも、その拠り所として学会の活動成果が活かされている場合が多いのではないでしょうか。

造園分野の研究成果が体系化され、誰もが納得できる共通の価値観や判断基準として昇華し、社会を動かすようになるまでには相当の時

間と労力がかかります。フォーラムの開催に付けていたが、日々の整備」と題する寄稿の中でも、「日々の整備」がなされていたが、日々の整備」と題する寄稿の中でも、「日々の整備」がなされたいと述べられていた。

その一方で、依然として敷居の高さやまだるつことを感じている方もおられると思います。なぜなら、学会における先見性のもとに認識される課題への取り組みやその成果など皆さんが携わっている個別・具体的な造園空間の創造、保全、管理業務との繋がりが、今一つしきり結びつかないと感する方も多いと思うからです。

正直なところ、長らく公園緑地行政分野に身を置いてきた私自身も、同様の感覚を抱いた一

人でした。改めて振り返ってみると、都市公園

整備や緑地保全、緑化推進に関する政策の企画

立案、推進の各段階において、ある課題への対

応策を考える際の拠り所は、学会活動を通じて

有識者相互の意見交換等により明らかにされた共通認識や科学的判断基準にあつたこと、すな

わち、その多くの部分は学会活動の成果に依存

していましたことに驚かされます。皆さんに携わる

造園空間現場において諸課題への対応策を考える際にも、その拠り所として学会の活動成果が活かされている場合が多いのではないでしょうか。

造園分野の研究成果が体系化され、誰もが納得

できる共通の価値観や判断基準として昇華し、社会を動かすようになるまでには相当の時

間と労力がかかります。フォーラムの開催に付

けていたが、日々の整備」と題する寄稿の中でも、「日々の整備」がなされていたが、日々の整備」と題する寄稿の中でも、「日々の整備」がなされたいと述べられていた。

(社)日本造園学会副会長  
(社)日本公園緑地協会研究顧問

高梨 雅明

芽を見出し育てる学会の活動

このため、学会では、全国大会時の公開学生コンペや全国都市緑化フェアにおいて子どもたちを対象としたワークショップを開催するなど、次代を担う人材の育成に意を用いて取り組んでいます。また、社会情勢の急激な変化の中で、実社会で活躍する造園技術者が高い倫理観と専門能

力をを持って業務に携わり社会的使命を果すことができるよう、技術者自身の技術や知識の更なる向上を図るための継続教育(造園CPD制度)

身の技術や知識の更なる向上を図るために、日造協が街路樹剪定士認定制度を設けた

る造園分野の力が何よりも求められています。また、企業の工場緑化・屋上緑化等については一般市民に対して美しい造園空間を提供することが社員の意

識向上に効果があり、企業のイメージアップにもつながることになります。個人庭園の場合についても、庭園を整え、適切な維持管理

を行うことが心地よい街並み景観を創出することになります。個人

庭園の場合は、伊豆スカイラインの景観調査・提案です。

平成15年11月に日造協をはじめとする造園関係団体が参画する「造園CPD協議会」が発足しました。そのご支援のもとに造園CPD制度は、平成16年5月から暫定的に実施され、平成17年4月には本格実施に至りました。それ以降、多くの造園技術者の参加が得られるよう制度の普及啓発活動や内容の改善が重ねられてきています。最近では、公共工事の入札契約における総合評価方式の導入・普及に伴って、配置

にも力を注いでいます。

平成15年11月に日造協をはじめとする造園関



「東品川海上公園」河岸両岸から屋上に連続する緑地

現在の都市に、生活の場としての良好な景観を形成するためには、多様に存在する生活行動の場に回遊性をもたらすことが必要ではないだろうか。

都市には、商業施設、オフィス、住宅、公園等の様々な生活行動の場がひしめき合っている。これらを個別の景観要素として捉え、現在の都市には、優しい現在の都市には、優れた景観構成要素となるものが多く存在している。

現在の都市に、生活の場としての良好な景観を形成するためには、多様に存在する生活行動の場に回遊性をもたらすことが必要ではないだろうか。

京都だけをとりあげても今後景観は良くなっていくと楽觀視出来るでしょうか？建築物による景観形成の問題もありますが、景観の都市も新景観政策を打ち出したことや、世間でも景観概念が良い方向へ変化し、ようやく広く認識されだしています。

しかし、現実問題として

## 良好な都市の景観を形成するには

### 景観構成要素に緑で連続性を持たせる

た都市の景観として捉えた場合、優れた景観を形成している都市はまだ少ない。

そこで、現在の都市に生活の場としての成長を促すためには、都市に存在する多様な生活行動の場に連続性を持たせ、都市に回遊性をもたらすことが必要ではある。

しかし、生活とは本来様々な活動が複合するものであるにも関わらず、都市が成長していく必要がある。

そこで、「屋上緑化」や「壁面緑化」に代表される特殊

市では容易ではない。

そこで「屋上緑化」や「壁

面緑化」に代表される特殊

緑地の連続的な整備が可

られる。

その他の技術の進歩に

よる都市緑化が造園建設業

が優れた都市景観の形成に

寄与できることであると考

える。また、各企業独自の

壁面緑化システム等は、そ

れぞれ特徴的な意匠をも

れど、利用目的が单一になり

がちである。また、関東圏においては労働や娯楽など、

そのためにも、冒頭に申

りまとめるにあたり、内容

7.まとめ・今後の課題

調査、提案を報告書に取

り、学会、コンサルタント

の充実を図り説得力を増す

には、学術的な論拠、提案

書としての内容の表現力、

事業化に向けての可能性の

検証が必要になります。即

ち、学会、コンサルタント

の充実を図り説得力を増す

には、学術的な論拠、提案

書としての内容の表現力、

事業化に向けての可能性の

</div

